

# 1 カルビー株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● カルビーグループのサプライチェーン全体の排出量を算定することで、地球温暖化の要因である温室効果ガス排出量及びプロセスを明確にし、削減を推進する。</li><li>● ステークホルダーの情報開示要求に応えるため。</li></ul>
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● サプライチェーン排出量を把握し、削減すべき対象・要因を特定・改善することで、削減につなげる。</li><li>● CDPをはじめとする各種アンケート、自社のウェブサイト・レポート類の刊行物等で情報開示する。</li></ul>
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● Scope1,2,3排出量の算定により、カルビーグループとして取り組むべき課題が明確になり、気候リスク低減や気候関連機会の特定につながる。</li><li>● 具体的な削減数値の開示が可能となる。</li></ul>
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 生産管理部及びサステナビリティ推進部が主管となり、国内外の各担当部門よりデータを収集、算定を実施。</li></ul>

## 2

## カルビー株式会社

## 各社の考え方

⑤ サプライチェーン  
排出量の削減に  
向けて

- 原材料及び容器・包装の製造工程、輸送・搬送は温室効果ガス総排出量に占める割合が高いため、サプライチェーンエンゲージメントを通じて排出量の削減を推進する。

⑥ サプライチェーン  
排出量算定の  
課題

- 算定用データ収集に時間を要すること。
- 削減の取組みの成果を反映できるよう、カテゴリ1の算定にて、一次データ活用に取り組んでいるが、データ収集が課題である。

⑦ その他  
(任意)

- 算定結果に対し、第三者検証を受けている。検証範囲は、国内の全生産拠点であり、海外の生産拠点についても順次拡大している。

# 3 カルビー株式会社

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2022年4月～2023年3月
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料・資材購入量（調達重量または金額等）	● IDEA v3.2
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● SC-DB
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 燃料、電気のエネルギー使用量	● CFP-DB
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 原材料・資材の調達重量 ● 輸配送における燃料使用量	● トンキロ法 SC-DB、IDEA ● 燃料法 SC-DB
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 種類別排出量	● SC-DB
カテゴリ6「出張」	● 従業員数	● SC-DB
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員数、営業日数	● SC-DB
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 出荷重量	● トンキロ法、独自シナリオ
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 包材の使用量	● SC-DB
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ15「投資」	● 該当なし	● 該当なし
「その他」	●	●

# 4

## カルビー株式会社

### サプライチェーン排出量算定結果

